

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090400332		
法人名	ケアサブライシステムズ 株式会社		
事業所名	グループホームつつじ		
所在地	群馬県伊勢崎市富塚町208-2		
自己評価作成日	令和2年12月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/10/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/10/index.php</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和3年1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所としては理念にもあるように、利用者様が地域で暮らせる環境を提供する為に地域の方々とふれあう場所に出掛けたり、外出行事など多く取り組んできたが、現在においては新型コロナ感染防止対策にて外出行事、ボランティアの慰問、面会も全て制限しており、実行できない状態である。何より命が最優先と考えている。どうしたらよいかと思い悩む日々の中、ホーム内で出来る事を計画して、家族にはラインにて当日に写真や動画を送っている。しかし、オンライン面会は理解が出来ない利用者が多く、難しい。また、家族からも家族の動画を利用者に見てもらいたいと希望があり、取り組んでいる。外気浴や散歩は続けている。

2か月に1度開催している運営推進会議は、行政担当者や家族・地域代表者が参加し、活発な意見交換や学習が行われてきた。コロナ禍の現在は書面開催となっているが、毎回事業所報告に加えオンライン面会や認知症等の資料を用意し情報提供がされている。また、参加者からも、利用者にとって外出できないことやレクリエーションで紙芝居を行った際の反応についての質問も出されており、意見交換が継続されている。新型コロナ感染防止の為外出行事や家族・外部者の来訪は制限されている。このような状況は利用者のADLの低下や認知症症状の進行に影響していることを認識し、介護計画作成時の検討項目にもなっている。事業所の特徴にも上げている『安全で自由に動ける生活』について、利用者それぞれの具体的な個別ケアの計画と実践を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時事業所理念を作成。ホーム会議のとき、参加者で読み上げ、共有、実践につなげている。外国人職員もおり、平仮名を振ったり、意味の説明を行い、理解を深めている。	職員の入れ替わりや外国人の職員も複数在籍しているため、理念の理解を深めるために、日常のケアに必要なコミュニケーションについての指導を重ねている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所自体が、地域の一員として日常的に交流を図っていたが、コロナ禍の中で、現在は交流することが出来ない。	以前は行われていた慰問やパンの移動販売車の来訪などは現在は難しい状況である。散歩やホームの前を通る小学生の見送りは続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々から相談があった場合は、話をよく聞き、対処法など分かりやすく説明している。コロナ禍のなかなので、主に入居相談のときに行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市役所の指導により、ホーム内の現状を文章にて伝えている。会議は行っていない。ご家族とは来苑時、または電話にて詳しく伝え、意見も聞いている。	2か月ごとに書面で運営推進会議を行っている。毎回事業所報告の他、資料も用意し情報提供も続けている。報告書は関係者・家族全員に届けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携は、担当課長が行っている。事業所の実情やケアサービスの取り組みについては担当課長を通して伝えている。	法人の担当課長が行政との連携を行っている。介護保険の認定調査の立ち合いや必要時には更新代行も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は新型コロナ感染防止対策により外部からの訪問や面会など制限している為、自由に入出りできないように施錠している。他、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、禁止事項は、定期的な研修を通して理解している。	コロナ感染防止対策として、現在は玄関と内側の引戸には施錠をしている。身体拘束についての研修もしており、そのほかの拘束はしていない。	感染防止と利用者の自由な動きの抑制との関連を考慮し、開錠についても検討してはいかがか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法については、ホーム会議等で定期的に研修を行い学び、事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は権利擁護に関する制度の理解に努めている。必要があればご家族に提案したり、ご家族からの相談に乗っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は契約時に解約も含め行なっている。不安や疑問については十分に尋ね、説明を行い納得を計っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する利用者、家族等の意見の反映はご家族は来苑時、または電話にて聞き、利用者には訴えがあるとき、聞いている。	家族の心配と要望は受け止めたうえで、コロナ禍での命の重要性を伝え、オンライン面会や動画作成をして利用者の生活状況を知らせている。利用者の外出希望には散歩や外気浴で応じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、運営に関する意見や提案を申し送りやホーム会議にて聞き、反映させている。また必要に応じて、担当課長に伝え代表者にも伝えている。	当日の勤務者で行う会議と申し送りで意見交換を行っている。身体拘束や苦情・コロナに関する学習や利用者の支援方法について話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者、職員個々の努力や実績、勤務状況を勤務実績票などで把握している。職場環境・条件の整備は出来る範囲で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については現在コロナ禍にて、各ホーム内において行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は現在、コロナ禍にて行っていない。地域密着型連絡協議会の会員内には、ネットなどを通し、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期において、また日常的にもコミュニケーションをとり、安心感を持ってもらい信頼を得る。訴えがあるときは、傾聴し不安や要望を探る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム内で本人がどう生活を送って欲しいのかを家族より聞き、職員で共有し取り組む。ホームでの様子を家族に伝え、関係作りを行なう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応時に、本人と家族が、今現在必要としている支援を、聞き取り等で確認する。必要があれば他のサービスも提案する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などホーム内での役割を持ってもらい、感謝や労りの言葉をかけ、関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの様子を家族に伝え、また、家族からのアドバイス(自宅での生活の様子など)を参考に支援させていただき、電話やオンライン面会などを通し家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	敬老会やクリスマス会などの様子を動画や写真等で家族などに送り、関係性が途切れないように努めている。電話の取次ぎなど、コロナ過の為出来ないことが多くあるが、可能な範囲で支援している。	ホーム内で行うクリスマス会などの行事は続け、その時の様子を家族に知らせ関係の持続に努めている。新聞を読んだり歌を歌ったり洗濯物干しなど、好きなことを続けてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーションへの参加の声掛けを行い孤立しないように支援している。季節の行事を通し、関わり合い協力しあえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を断ち切らない取組みは、これまでの関係性を大切にして、必要に応じて本人や家族の経過を、電話にて聞き、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族より初回面接で意向を伺う。入居後も対話で聞き取り、また、現場スタッフからも本人・家族が言っていた言動などを聴取している。心身状態により本人の負担がかからないようケアプランに位置づけている。	入居時のアセスメントをふまえ、利用者の日ごろの訴えを聞きながら、職員間で共有している。七夕には希望を短冊に書いている。安全な範囲で自由な行動ができる支援を意識している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族より初回面接で意向を伺う。ケアプラン作成時に反映するようにしている。有能であれば生活の中で活かせる機会を作り、行っていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録を確認し、現場スタッフからも状況等確認を行っている。勤務毎に各居室の見守り、ホーム内の様子を確認、状況で声掛けを行い寄り添えるよう努力している。一人ひとりの行動を観察し、何を望まれているか考察する		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングにてケアのあり方を見直す。家族の意向と本人の能力や負担をみながら、サービス内容を検討。現場スタッフの声や認知症進行、状態変化によりプランの修正を行い、本人に合わせて作成する。	モニタリングは毎月行い、担当者会議を開いて3カ月ごとに計画を見直している。ADLの変化は職員の申し送りや記録から確認している。コロナ禍による活動面での変化が症状に影響している事を認識している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別ケア記録に記入、また実施記録のも記入行い、情報の共有、実践に繋げ買いごっけいか区の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望やニーズにより、柔軟な支援や、サービスの多機能化に努めている。たとえば、自宅に戻られデイサービス、ショートステイの利用や特養に移られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働は、現在コロナ禍のなかでなげが出来るか、模索している。外出も出来ない状況で、何よりも命の安全を最優先している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族に納得の得られたかかりつけ医を決めてもらっている。かかりつけ医と事業所は電話やFAXにて状態報告を行い関係性を築き適切な医療を受けられるよう支援している。	希望のかかりつけ医の継続受診は説明している。現在は全員が4週に1度の協力医の往診を受けている。希望者は歯科受診ができる。従来専門医の受診は家族に同伴してもらっていた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で捉えた情報や気づきを、訪問看護師に伝え必要に応じて相談している。利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療機関のソーシャルワーカーや看護師と面談を行い情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、入居や契約時に本人や家族等と話し合い、事業所で出来る事を十分に説明している。方針を共有し、地域の関係者(医療機関)とチームで支援に取り組んでいる。	看取りに関する法人の指針があり、入居時に説明している。過去にも取り組んだ経験がある。協力医・訪問看護の協力も得られている。職員は資料をもとに学習している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習や応急手当、初期対応の訓練を全ての職員は定期的に行なっている。救命講習は今年度検討していたが、コロナ禍の為、収束後に計画実施予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策は、昼夜を問わず、安全に避難できるように、職員全員が訓練を行っている。自主訓練、消防職員派遣による訓練、消防署に避難訓練の報告を行っている。	昨年の水害時に経験したサンピアへの早めの避難行動と1泊の避難生活の教訓から、今年度も水害と火災を想定した訓練を各々1回づつ行っている。備蓄は米・水が二日分その他は常時回転させて備えている。	水害時の避難経験も活かし火災などの災害に備え、判断の難しさが職員の行動に影響しない様、自主訓練の回数を増やしていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に、人格の尊重とプライバシーの確保を大切にして、対応している。また、支援している。	利用者の情報に関する秘密保持を徹底している。呼称は『さん』で統一している。コミュニケーションの仕方や声掛けのトーンについて、管理者は職員に注意している。	利用者への配慮として、異性介助になる際には確認の声掛けを行ってはいかがか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の望みに従って支援しています。本人の希望を表したり、自己決定できるように思いを引き出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが自分の生活習慣がある。尊重し尊敬の気持ちを持ち、その人の生活が送れるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい、持てる能力と本人の望むおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みを聞き、職員が準備を行い出来る人には配膳をしてもらい、片付けや食器拭きテーブル拭き等は一緒に行っている。	週6日、昼と夜は配食業者の食材を使用している。朝はパン食だが、米飯希望には応じられる。家族からの差し入れは食事の際に提供している。飲み物はコーヒーなど4種類用意し、好みを確認している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量は実施記録に記入して確認している。栄養バランスは職員が確認、またその人により医師から指示を貰い食事量を決め支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアはその人、一人ひとりに応じたケアを行なっている。週一回の訪問歯科により口腔ケア、歯周病、虫歯の治療も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導や季節、水分摂取量など考慮しながら、また、本人の排泄パターンを理解して、介助を行っています。	各々の状態にあわせチェック表を活用して排泄支援をしている。ポータブルトイレを使用している利用者もいるが、トイレでの排泄ができるようにしている。汚染時はシャワー浴などを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜、ヨーグルト摂取等心がけ、楽しく運動に参加できるよう声掛け、実施に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間に多少の制限はあるが、清潔な心がけ、楽しい会話で楽しい時間を提供しています。希望があればいつでも入浴できるよう、心掛けています。	日曜日以外は入浴支援をする体制を取っている。少なくとも週2回は入浴支援をしている。入浴ができる事は知らせており、希望に応じている。	夏場や汚染時には連日入浴支援のチェックが記録されているが、入浴のアナウンスを継続していただき、入浴支援と汚染時の支援との区別を明確にしてはいかか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心の状態等考え、楽しい会話を心がけ不安のない様支援します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を把握し、目的や副作用、用法、用量について理解を深め、服薬の支援と症状の変化の確認に努め必要ときには主治医に相談する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割は家事など、その人ごとに出来る事をしてもらい、楽しみごとは好きな歌やテレビ観賞など一人ひとりに合った支援をしています。嗜好品は主に好きな食べ物(パンやうどん)の提供を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は新型コロナ感染防止対策の為外出禁止となっております。ホームの周辺のみ(寒い日は時間を短くして)散歩に出ています。	ドライブや外出行事は中止している。日常的な散歩や庭やテラスでの外気浴などは行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍のなか、中々外へ出て買物等することが難しくなってきました。時期を見てホーム内で模擬店を行なってみてはと考えて、計画します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙などは難しい利用者もいると思います。ご家族に協力して頂き電話で声を聞かせる機会を、多くしていく。また、はがきを書いているご家族もあり、支援していきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に沿った花を飾ったり、飾りものの作成を行ったり、温度調整やBGMなど、利用者や職員と協力し合い、居心地の良い共用空間の提供を行なっている。	ウイルス対策としてオゾン除菌消臭器を設置している。生活臭や汚染臭には換気や拭き掃除をしている。利用者の動きや希望にあわせて、椅子やソファの置き場所を変えている。解りやすいカレンダーや時計・献立の掲示や季節の飾りを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各、個人が楽しく過ごせるよう、目配りや気配りを行なっています。一人でも落ち着ける場所の提供もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や家族の来苑時に、本人や家族と相談して使い慣れたものや好みの物など持ってきていただいている。	利用者が過ごしやすいように、家族の意向も取り入れて筆筒や鏡台・置き時計などの家具や写真、日用品が用意されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の出来る事分かることを把握して、その人に合わせて、安全且つ自立した生活が送れるように工夫している。		